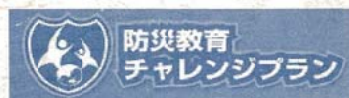


2012年度 防災教育チャレンジプラン

アヤマの里の防災リーダー目指して
～ 雨にも負けず 雪にも負けず ～



成果報告書

平成25年2月

秋田県大館市立第二中学校

2012年度 防災教育チャレンジプラン



アヤマの里の防災リーダー目指して
～ 雨にも負けず 雪にも負けず ～



大館市立第二中学校



目 次

I. 防災教育チャレンジプランとは	1
II. チャレンジプラン説明会・報告会パンフレット	2
III. 2012年度防災教育チャレンジプランの取り組み	
1. 概要	3
2. プランの年間活動記録	4
3. 実践したプランの内容と成果	5
4. 苦労した点・工夫した点	13
5. 小学校及び地域や他の団体との連携	14
6. 成果と課題（プラン全般）	14
7. 今年度の重点に関わる実践	15
IV. 最終報告会発表資料	17
V. 地域防災マップ	
1. 長面袋・二ツ森	25
2. 上中大通り	26
3. 獅子ヶ森1区・2区	27
4. 山神台・中台・向羽立	28
5. 日景町・板子石	29
6. 高館下・松峰	30
7. 松木・商人留	31
VI. 学校報「あやめ」（防災関係）	33

① 防災教育チャレンジプランとは？

なぜ今 防災教育チャレンジプランなのか

日本はかつてより世界有数の災害大国であるといわれてきました。

そしてこの21世紀も、日本をたくさんの災害が襲うと考えられます。

災害に立ち向かうためには、私たちひとりひとりの防災力を高め、強くなれる社会を目指し、実現する必要があります。

そして21世紀の災害に立ち向かうのは、今の子どもたちです。

災害に見舞われたとき、自分自身を守りお互いに助け合っている力を今から育む防災教育がこの国の将来にとって不可欠なのです。

防災教育が行われる場所は、学校だけではなく。

地域、家庭が協力し合い、防災教育を推進し取り組むことが大切なのです。

私たちは、次の世代を担う子供達を中心とした家庭や地域の防災に関わる能力の向上を図ることにより社会全体の防災力を向上させることを使命として防災教育を多くの人々に紹介し、実践してもらおう、以下のような取り組みを進めます。

- 「防災教育チャレンジプラン」を通じ、防災教育の新しい試み、アイデアによる活動を支援します。
- 防災教育に取り組む個人、団体の交流の場をつくり、知恵や情報の共有、取り組みの活性化を行います。
- 防災教育を推進する個人や団体とともに、防災教育の輪を広げ、個人個人や地域における防災力の向上に努めます。



— 防災教育チャレンジプラン実行委員会 —

2013年2月9日

秋田県大館市立第二中学校

プラン名 アヤマの里の防災リーダー目指して ～雨にも負けず 雪にも負けず～

プランの対象 中学生、小学生、保護者、地域住民ほか

所在地 秋田県
大館市釈迦内字長者森1

ープランの目的・ここがポイント！

- ・地域住民の防災意識や実践力を高めるために、中学生が地域の防災リーダーとして、防災活動を企画・運営していきける力を身に付ける。
- ・災害時、学校が地域の避難場所として機能するため、避難所運営のための知識や実践力を身に付ける。
- ・地域産業における防災活動を理解し、人災等の二次災害を防ぐための努力を学んだり、提言としてまとめたりする。

ープランの概要

- ・生徒を中心とした防災活動検討委員会を組織し、地域住民と共に地域防災組織を立ち上げ、地域に根ざした防災活動に取り組む。
- ・避難所コンテストや炊き出し訓練など、学校が避難所となったときの役割や運営の仕方を考える。
- ・地域産業を訪問し、地域産業が取り組む防災について学習を深める。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・地域住民との交流が進み、地域の防災意識が高まる。また、「地域力」として、中学生が必要な人材となり、地域を活性化させる役割を担う。
- ・災害時に対応する知識や実践力が身に付き、地域に貢献できる。
- ・地域産業を理解することで地域愛を育むことができる。

ー成果として得たこと

- ・地域に根ざした防災活動を展開したことで、地域住民の防災意識を向上させることができた。また、これまで培った地域連携をさらに深めることができ、地域と学校の一体感が醸成された。
- ・生徒が地域の一人としての自覚をもち、将来にわたって地域のために尽くすといった心情を育むことができた。
- ・生徒中心の防災活動検討委員会を立ち上げたことで、防災に関する意識が高まったとともに、諸活動における主体性が育まれた。
- ・先進的な取り組みとして、その成果を県内に普及・啓発することができた。

ー全体の反省・感想・課題

- ・年間計画を策定し、見直しをもった取り組みができた。教育課程内で行えること、教育課程外で行うことを明示したことで計画的により実践的に活動することができた。
- ・防災教育を通して、防災に関する知識や実践力を身に付けることができた以上に、地域連携やふるさとに対する愛着をもてたことに大きな意義があった。
- ・課題としては、チャレンジプラン終了後の活動の継続やより地域の実態に即した活動内容の検討が求められる。
- ・保護者とのより確かな連携を進めたい。

炊き出し訓練における自衛隊の実演



ー今後の継続予定

2年間の防災教育チャレンジプランの実践を受け、生徒や地域の防災意識や災害への実践力が身に付いてきた。この活動を継承し、次年度以降は次のような取り組みを考えている。

- 1 活動内容の精選と継続的な取り組み
- 2 実践内容の集約と実践成果の普及と還元

2012年度
防災教育チャレンジプランの取り組み

1. 防災教育チャレンジプラン 概要

実践団体名	秋田県大館市立第二中学校		
連絡先	0186-48-2935		
プランタイトル	アヤメの里の防災リーダー目指して ～雨にも負けず雪にも負けず～		
プランの対象者 ^{*1}	中学生、保護者 地域住民	対象とする 災害種別 ^{*2}	災害全般

【プランの目的・ここがポイント！】

- ・地域住民の防災意識や実践力を高めるために、中学生が地域の防災リーダーとして、防災活動を企画・運営していける力を身に付ける。
- ・災害時、学校が地域の避難場所として機能するため、避難所運営のための知識や実践力を身に付ける。
- ・地域産業における防災活動を理解し、人災等の二次災害を防ぐための努力を学んだり、提言としてまとめたりする。

【プランの概要】

- ・生徒を中心とした防災活動検討委員会を組織し、地域住民と共に地域防災組織を立ち上げ、地域に根ざした防災活動に取り組む。
- ・避難所コンテストや炊き出し訓練など、学校が避難所となったときの役割や運営の仕方を考える。
- ・地域産業を訪問し、地域産業が取り組む防災について学習を深める。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・地域住民との交流が進み、地域の防災意識が高まる。また、「地域力」として、中学生が必要な人材となり、地域を活性化させる役割を担う。
- ・災害時に対応する知識や実践力が身に付き、地域に貢献できる。
- ・地域産業を理解することで地域愛を育むことができる。

2. プランの年間活動記録 (2012年)

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4月	・防災活動検討委員会の設立	・防災活動検討委員会の役割について確認 ・年間活動計画の立案	・第1回防災活動検討委員会の実施 ・町内班会
5月		・学年行事の準備 ・避難訓練の準備 ・地域の防災組織立ち上げに向けて、地域の代表者と検討	・修学旅行でのそなエリア見学 ・エコシステム花岡訪問 ・第1回避難訓練 学校報「あやめ」の発行
6月		・地域防災組織立ち上げの準備。消防隊員による助言の依頼	・地域防災組織の立ち上げ
7月			・小学校との交流 I
8月		・防災マップバージョンアップの構想検討	・AEDを含む救急救命講習 ・地域防災活動 I ・避難所モデル・プランコンテスト ・着衣水泳学習 (保健体育)
9月	・後半プランの見直しと計画	・学校祭での防災展準備	・地域防災活動 II ・地域防災活動 III ・防災マップバージョンアップ
10月		・炊き出し訓練に向けて自衛隊員と素案の検討	・学校祭での防災展 ・炊き出し訓練
11月			
12月	・プランのまとめと振り返り	・防災マップDVD化の準備	・小学生との交流 II
1月		・避難訓練の準備	・防災マップDVDの制作 ・第2回避難訓練、防災講演会 ・防災グッズの制作 (技術・家庭)
2月			・放射能に関する学習 (理科)
3月			

3. 実践したプランの内容と成果

タイトル	1 町内班会 (町内の危険箇所確認と緊急連絡網づくり)
実施月日 (曜日)	平成24年4月10日 (火)
実施場所	大館市立第二中学校 体育館
達成目標	地域における危険箇所、避難場所を確認するとともに、緊急時に備え連絡網を整備する
実践方法・進め方	事前 防災活動検討委員会 (生徒主催) にて、町内班会の進め方を確認した。 当日 地域防災マップを活用し、地域の危険箇所や避難場所を確認した。その後、緊急時に備え、町内の連絡網を整備した。 事後 各自で町内の危険箇所や避難場所を確認した。
成果と課題	【成果】 新入生に対し、地域の危険箇所や避難場所を教えることができた。



タイトル	2 修学旅行でのそなエリアの見学と災害の疑似体験
実施月日 (曜日)	平成24年5月24日 (木)
実施場所	東京臨海広域防災公園「そなエリア」
達成目標	災害時における行動について学ぶ
実践方法・進め方	事前 そなエリアについてどのような施設なのかを学習した。 当日 災害後の3日間の行動について疑似体験した。 事後 総合的な学習の時間において、新聞形式にまとめた。 全校発表会で、代表のグループが全校生徒の前で発表した。
成果と課題	【成果】 災害発生時の疑似体験ができ、映像による学習による思考もでき有意義であった。 【課題】 体験したことを日常生活にもつなげて生かしていけるようにしたい。



タイトル	3 エコリサイクル花岡訪問
実施月日（曜日）	平成24年5月22日（火）
実施場所	大館市花岡町字堂屋敷30-2
達成目標	エコ産業と防災についての関わりを学ぶ
実践方法・進め方	事前 エコリサイクルがどのような会社なのか情報を集め、知りたいことをピックアップした。 当日 工場内を見学し、地域産業の実態とそこで働く人たちの努力によって人的災害を未然に防ぐ取り組みを学んだ。自然災害に限らず、人的被害についても学ぶことができた。 事後 総合的な学習の時間に、個人新聞を作成し学んだことをまとめた。 学校祭で、プレゼンテーションや寸劇を効果的に入れて、学んだことを発表した。
成果と課題	【成果】学校生活で身に付けたことが、社会に出ても重要であることを実感できた。 【課題】実感したことを日々の生活に自主的に生かしていくこと。



タイトル	4 避難訓練（地震）
実施月日（曜日）	平成24年5月29日（火）
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	災害時における避難の仕方や行動について学ぶ
実践方法・進め方	事前 緊急地震速報を受けた場合の対処の仕方について学習した。 当日 大地震が発生し、緊急地震速報を受信したところから、実際の避難まで訓練した。 事後 日頃の地震対策と避難の仕方や頭を守る大切さについて確認した。
成果と課題	【成果】生徒が考案したヘルメット着用により、より安全な避難が可能になった。 【課題】緊急地震速報を受けた後、身の安全の優先順位について検討を要した。



タイトル	5 地域防災組織の立ち上げ
実施月日（曜日）	平成24年7月4日（水）
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	地域の防災リーダーとしての自覚を育むとともに実践力を身に付ける
実践方法・進め方	事前 防災活動検討委員会にて地域防災活動の進め方を検討した。 当日 地域防災活動実施に向け、生徒と大人の町内会長が話し合いをし、計画を立てた。 事後 各町内の活動内容を掲示物やおたよりに載せて周知した。
成果と課題	【成果】地域の一員と地域での防災リーダーとしての自覚をもたせることができた。 【課題】地域防災活動日までの、意欲の継続と活動内容の在り方。



タイトル	6 小学校との交流 I
実施月日（曜日）	平成24年7月17日（火）
実施場所	大館市立釈迦内小学校内
達成目標	異年齢集団との交流と地域防災に関する情報を共有する
実践方法・進め方	事前 小学校町内班会での中学生の役割を確認し合った。 当日 防災マップを持参し、地域の防災に関する情報を伝達し、低学年児童と集団下校を行った。 事後 自分たちより弱い立場にある人たちへの関わり方について確認した。
成果と課題	【成果】緊急時の対応として、小学生と共に下校する体制が築けたこと。 【課題】緊急時、小中学生で集団下校する際の保護者等への連絡体制の在り方。



タイトル	7 AEDを含む救急救命
実施月日(曜日)	平成24年 8月 1日(水)
実施場所	大館市立第二中学校体育館
達成目標	心肺蘇生法と自動体外式除細動器(AED)について理解を深める
実践方法・進め方	1. 講師紹介(消防隊員) 2. 応急処置の目的・必要性について講話 3. 実技(グループごと) ①心肺蘇生法 ②AEDの使用方法 4. 保健委員会の寸劇と感想発表 5. 事後指導(ワークシートへの記入)
成果と課題	【成果】生徒、教職員ならびに地域の方々と一緒に講習を受けたことで、地域全体の防災意識が向上した。 【課題】教科との関連を図りながら、より効果的に実践力を高めたい。



タイトル	8 避難所としての学校(避難所モデルプラン・コンテスト)
実施月日(曜日)	平成24年 8月20日(月)
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	学校が避難所になった場合の在り方について考える
実践方法・進め方	事前 避難所の現状と不便さについて理解を深める。 当日 快速に過ごせる避難所の在り方を空間・人の観点から考え、レポートにまとめる。 事後 学校祭にて展示し、優秀な作品を選出し表彰する。
成果と課題	【成果】避難所生活の大変さを理解し、中学生ができることや避難所としての学校の活用例など具体的なイメージをもつことができた。 【課題】避難所に対するイメージづくりのための資料や情報が思ったより少ないこと。



タイトル	9 地域防災活動 I
実施月日(曜日)	平成24年8月22日(水)
実施場所	各町内
達成目標	地域防災活動を通して、防災についての地域力を向上させる
実践方法・進め方	事前 地域防災組織を立ち上げた際の確認事項について、町内班長を通して周知した。 当日 町内毎に計画した防災活動を地域住民と共に行った。 事後 地域防災活動の意義と地域連携の大切さを再確認した。
成果と課題	【成果】地域防災活動の内容に、町内毎の工夫が見られた。地域住民との交流が図られた。 【課題】消火器等の用具の確保と指導者の確保。



タイトル	10 地域防災活動 II (ふるさと学習)
実施月日(曜日)	平成24年9月11日(火)
実施場所	各町内
達成目標	地域行事に参加することで、地域の情報を得たり、異年齢交流を深めたりする
実践方法・進め方	事前 地域行事と防災についてのかかわりを防災検討委員から周知した。 当日 地域行事に参加し、一人暮らしや老人宅や空き家などの情報を得た。 事後 地域で得た情報と防災マップの関連について検討した。
成果と課題	【成果】様々な地域情報を得ることができ、地域への理解が進んだ。 【課題】地域情報の集約の仕方と防災マップへの関連づけ。



タイトル	11 地域防災活動Ⅲ（地域ボランティア）
実施月日（曜日）	平成24年9月18日（火）
実施場所	各町内
達成目標	地域ボランティアを通して、地域の方々との交流を深めるとともに、地域内の危険箇所等を再確認する
実践方法・進め方	事前 町内班長が、町内会長との打ち合わせを行い、決定事項を町内班会で周知した。 当日 地域の一員としてボランティア活動を行った。また、各町内の危険箇所を調査した。 事後 得た情報を防災マップ作りに活用した。
成果と課題	【成果】地域の方々とのコミュニケーションを取ることで、地域への理解が進んだ。 【課題】町内ごとの取り組み具合の差。



タイトル	12 防災マップづくり（防災マップのバージョンアップ）
実施月日（曜日）	平成24年10月1日（月）
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	防災マップ作成を通して、災害や地域防災活動に対する意識を高める
実践方法・進め方	事前 地域防災活動Ⅲの際に、危険箇所等の確認を行った。 当日 夏季と冬季の危険箇所等を比較しながら、防災マップを作成した。 事後 各地区の危険箇所等を他地区の生徒に説明した。また、学校祭で防災マップを掲示した。
成果と課題	【成果】夏季と冬季を比較することで、自分たちの地域に対する理解を深めることができた。 【課題】マップの大きさに対する写真の配置や活用枚数。



タイトル	13 二中祭の取り組み（防災展）
実施月日（曜日）	平成24年10月7日（日）
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	地域防災マップや避難所運営のアイデアなど、今年度の防災に関する作品などを展示することで、生徒、保護者や地域住民への啓発活動を行い、防災意識の高揚を図る
実践方法・進め方	事前 防災展の担当生徒の希望を募り、防災意識についてのアンケートを実施、集計、防災に関する啓発資料などを作成した。 当日 作成した資料、全校生徒が制作した地位防災マップを展示した。また、昨年度作成した防災DVDの閲覧ができるようにした。 事後 作成した資料を二中祭以降も校内に掲示した。
成果と課題	【成果】全校制作として各々のグループが取り組んできた地域防災マップを展示することで、他町内の様子も知ることができ、自分たちの活動が確認でき、成就感・達成感を味わった。また、防災に対するアンケートのまとめを見ることで、防災意識をさらに高めることができた。 【課題】アンケート結果から、家庭の防災意識をさらに高める必要がある。



タイトル	14 炊き出し訓練
実施月日（曜日）	平成24年10月24日（水）
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	火起こしや炊き出しの実際に挑戦し、緊急時に対応できる能力を身に付ける
実践方法・進め方	事前 炊き出し訓練の計画や役割分担について知る。 自衛隊員と連絡を取り合い、活動目的や当日の動きについて確認を行う。 当日 火起こしの行い方、なべによる炊飯と豚汁づくりの実施。 事後 感想記入と掲示。
成果と課題	【成果】学校が避難所となったとき、中学生ができることを確認し、炊き出しの仕方を身に付けることができた。 【課題】自衛隊員との連絡調整を教師主導で行ったが、生徒が携わることのできる部分では生徒も活用したいものである。



タイトル	15 小学校との交流Ⅱ
実施月日(曜日)	平成24年12月14日(金)
実施場所	大館市立釈迦内小学校
達成目標	同じ学区の小学生在積雪時の防災について説明したり、集団下校したりして、小学生の防災意識を高めるとともに、小中学校の連携を深める。
実践方法・進め方	事前 説明のための練習。 当日 小学校に移動後、小学校の町内児童会に参加し、地域ごとに積雪時の防災についての情報を説明する。その後、町内ごとに集団下校し、実際の危険箇所を確認した。
成果と課題	【成果】自分たちの取り組みの成果を広めることができた。自分たちより弱い立場にある小学生を守るとともに、地域の防災リーダーとしての自覚が育まれた。 【課題】小学校との距離があるため、定期的に連携を取ることが困難である。



タイトル	16 地域防災活動Ⅳ(除雪ボランティア)
実施月日(曜日)	平成25年1月12日(土)
実施場所	各町内
達成目標	地域の除雪ボランティア計画を立案し、地域を雪害から守る実践力を身に付ける
実践方法・進め方	事前 防災活動検討委員会にて除雪ボランティアの進め方を検討した。地域防災活動実施に向け、生徒と町内会長が話し合いを行った。 当日 地域の一員としてボランティア活動を行った。 事後 活動内容を掲示物やおたよりに掲載して周知した。
成果と課題(2011年実施分)	【成果】自分たちが住む地域の除雪ボランティアを行うことで、地域連携が図られ、雪害を防ぐための実践力が身に付いた。 【課題】除雪ボランティア設定日に限らず、自分たちの判断の下、ボランティア活動を行っているようにしたい。

タイトル	17 避難訓練Ⅱ(積雪時)・防災講演
実施月日(曜日)	平成25年1月16日(水)
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	積雪時の安全確保や避難の仕方を身に付ける
実践方法・進め方	訓練 ・開催発生時の避難の仕方について ・積雪時の避難の仕方について 講演
成果と課題(2011年実施分)	【成果】積雪時の安全な避難の仕方や知識が身に付いた。また、日頃から避難口の確保の大切さが理解できた。 【課題】地域住民への避難誘導の在り方や安全確保の仕方を検討したい。

タイトル	18 防災グッズ製作
実施月日(曜日)	平成24年1月28日(月)～ 実施予定
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	多機能フリース・ブランケットの製作を通して、自宅に必要な防災グッズをリストアップし、家族と一緒に準備をする
実践方法・進め方	事前 自宅での防災グッズの準備状況を調べ、必要な防災グッズをリストアップする。 当日 製作(4時間) 防災グッズリストづくり(1時間) 事後 一定期間後の各家庭の準備状況に関する評価

タイトル	19 放射能に関する学習
実施月日(曜日)	平成25年2月実施予定
実施場所	大館市立第二中学校内
達成目標	放射線の性質を知り、正しい知識と判断力を身に付ける
実践方法・進め方	・観察・実験を通して、放射線の性質について学ぶ。 ・放射線に関するDVDを視聴し、医療や製造業など、身近なところでその性質が利用されていることを学ぶ。
成果と課題	【成果】 【課題】

4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案と調整で 苦勞した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした防災活動を目指し「積雪時の防災」をプランに盛り込んだ。しかし、時期が限定されるため、年間を通して地域と関わりをもてるよう計画立案した。また、計画立案時には、生徒が主体的に活動できるよう、生徒主催の防災活動検討委員会を立ち上げ、事業の推進に当たらせて。 ・避難所としての学校の在り方に取り組み上で、情報が少なく、どのような形で実践に結びつけていくか苦勞した。工夫点としては、消防や自衛隊などの機関と連携し、学校として必要とする情報を提供していただいた。 ・地域産業と防災の在り方に取り組み上で、住民感情に配慮するため、エコ活動や教科における学習とリンクさせながら実践に結びつけた。
準備活動で 苦勞した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が中心となって地域防災組織を立ち上げるにあたり、学校の地域全戸配布、町内班長と町内会長のパイプ、学校支援地域本部事業の活用など、これまで築きあげてきた地域との連携が功を奏した。学校と町内会長のパイプを生かし、町内会長を窓口としてプランの立案と調整を行った。 ・生徒の主体性を育てるために、生徒主催の防災活動検討委員会を設置し、地域に役立つ中学生となれるようプランの立案・調整を行った。 ・防災教育に取り組みに当たり、教育課程内の時数をいかに割り当て、いかに生み出すか苦勞した。学校行事や長期休業等を上手に使用し、教育課程内で対応できるようにしたとともに、教科や総合的な学習の時間とも関連付けながら調整を行った。
実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の取り組みを土台として、今年度の重点である「地域との連携 および地域に根ざした防災活動の在り方」に関する実践を行うことができた。 ・昨年同様、職員役分担や組織的活動の際の共通理解に時間がかかってしまった。 ・今後も生徒の防災意識の高揚、実践力の育成、災害時の備えについて、継続して取り組んでいくことが大切だと考えている。

5. 小学校及び地域や他の団体との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	・大館市立釈迦内小学校	・小学校の町内児童会において、本校生徒が作成した地域防災マップを活用し、危険箇所や防災施設について説明した。 ・本校生徒と小学校児童が集団下校を行った。
保護者・PTAの組織	・PTA	・救命救命講習会や地域防災活動に参加し、生徒とともに活動した。
地域組織	・各町内会 ・学校支援地域本部（地域住民） ・釈迦内地区まちづくり協議会 ・町内会長連絡協議会 ・婦人会	・地域防災活動における、生徒の活動への協力を依頼した。 ・協議会が主催する講演会と避難訓練を組み合わせ、相互作用によって防災意識を高めることができた。
国・地方公共団体・ 公共施設	・大館広域消防署 ・大館市教育委員会 ・防衛省 秋田地方協力本部 大館出張所	・AEDを含む救命救命講習会の講師として協力をいただいた。 ・地域防災組織を立ち上げる際、被災地における中学生の活動の意義について講演をいただいた。 ・炊き出し訓練時に、火の起こし方や役割分担の仕方の指導をいただいた。
企業・ 産業関連の組合等	・エコシステム花岡 ・東光コンピュータサービス	・地域産業と防災を考える上で、職場見学に協力いただいた。 ・地域防災マップバージョンアップにあたり、編集作業にアドバイスをいただいた。
ボランティア団体・ NPO法人・NGO等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒中心の防災活動検討委員会を立ち上げたことで、防災に関する意識が高まったとともに、諸活動における主体性が育まれた。 ・様々な取り組みの結果、防災に関する知識や災害時における実践力が身に付いてきた。 ・地域に根ざした防災活動を展開したことで、地域住民の防災意識を向上させることができた。また、これまで培った地域連携をさらに深めることができ、地域と学校の一体感が醸成された。 ・生徒に「地域の防災リーダー」としての自覚が芽生え、また、将来にわたって、地域の一員として尽力するといった心情も育むことができた。
全体の反省・感想・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を通して、防災に関する知識や実践力を身に付けることができた以上に、地域連携やふるさとに対する愛着をもたせたことに大きな意義があった。 ・年間計画を策定し、見直しをもった取り組みができた。教育課程内でできること、教育課程外で行うことを明示したことで計画的により実践的に活動することができた。 ・課題として挙げられることは次の4点である。 <ul style="list-style-type: none"> ① 想定外の災害への対応とマニュアルづくり ② 保護者との連携 ③ 防災教育の教育課程への位置付け ④ 危機意識を継続した取り組み
今後の継続予定	<p>2年間の防災教育チャレンジプランの実践を受け、生徒や地域の防災意識や災害への実践力が身に付いてきた。この活動を継承し、次年度以降は次のような取り組みを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 活動内容の精選と継続的な取り組み 2 実践内容の集約と実践成果の普及・還元

7. 今年度の重点「地域との連携 および地域に根ざした防災活動の在り方」 に関わる実践

中学生が地域の防災リーダーとなり、地域住民と共に活動することにより、地域の一員としての自覚と、地域防災の重要性を認識することができた。また、避難所コンテストや炊き出し訓練などの活動を通して、災害時に対応する知識や実践力を身に付けることができた。さらに、地域住民との交流が進むにつれ、地域とのつながりが強くなり、災害時、学校が避難所として機能するための基礎を築くことができた。以下にその具体的な取り組みを記す。

(1) 地域防災組織の立ち上げ

○大館消防署員を招き、防災集会を開催した。防災活動に関するアドバイスをいただき自分たちの活動の重要性を再認識することができた。

○町内会ごとの話し合いをもち、要望や地域行事についての詳細をうかがいながら、今年度の取り組みについて話し合い、決定をした。



防災集会での消防隊員による助言



地域防災組織立ち上げのための町内会ごとの話し合い

(2) 小学生との交流

○7月と12月の2回実施した。7月には、夏の防災マップを、12月には積雪時の防災マップを加えたものを用いて、危険箇所やAEDの設置場所について、小学生を前に説明した。その後、小学生とともに集団下校した。



小学校での防災マップ説明(12月)



小学校での防災マップ説明後の集団下校(7月)



小学生との集団下校(12月)

(3) AEDを含む救命救急講習

○消防署から救急救命士を迎え、人形による胸部圧迫とAED操作を体験し、緊急時の対応について学び、実践力を高めた。生徒、教職員ほか、保護者・地域住民も多数参加しての講習会となった。



AEDの使用方法的の説明

(4) 地域防災活動

○夏休み中に、町内ごとに防災活動を行った。地域住民も参加して、町内の防災看板を作ったり、消火器の使用方法についての講習を受けたりした。

○9月中旬には、地域行事（祭典）に参加し、地域住民と交流を深めた。

○9月下旬には、3回目の地域防災活動を行い、各町内の危険箇所の様子を確認したり、地域住民とともに清掃活動を行ったりした。



地域防災活動Ⅱ 地域行事への参加



地域防災活動Ⅰ 各町内での取り組み

(5) 炊き出し訓練

○自衛隊の協力を得て、炊き出し訓練を行った。地域防災に貢献する意義や、地域の防災リーダーとして、災害時に貢献できる実践的な実習を行うことができた。



自衛隊の協力による炊き出し訓練



地域防災活動Ⅲ 各町内での取り組み

最終報告会発表資料

アヤマの里防災リーダーを目指して

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して、雨にも負けず雪にも負けず～

アヤマの里の防災リーダーを目指して
～雨にも負けず雪にも負けず～




大館市立第二中学校



アヤマの里の防災リーダーを目指して
～雨にも負けず雪にも負けず～

平成24年度の取り組み

- 地域防災組織の立ち上げと地域防災活動
- 避難所としての学校
- エコ産業都市と防災



大館市立第二中学校

アヤマの里の防災リーダーを目指して
～雨にも負けず雪にも負けず～

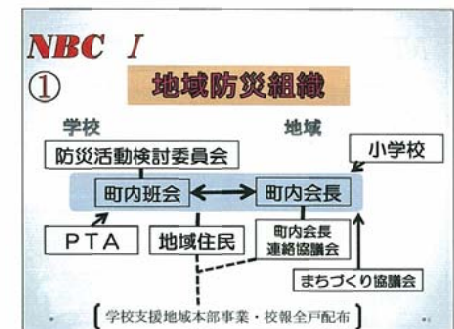
～今年度の方針～

生徒の自主企画



N...N DHU
 C...BOUSA I
 O...CHALLENGE

- NBC I 地域防災活動**
- ① 地域防災組織の立ち上げ
 - ② 地域防災活動
 - ③ 防災マップ冬バージョンの作成
 - ④ 小学校との連携



NBC I ① 地域防災活動

地域の防災情報を新入生へ伝達

NBC I ① 地域防災活動

防災集会→地域防災活動の検討

「助けられる人から
助ける人へ」

「地域の防災リーダー」

NBC I ② 地域防災活動

地域ボランティア

NBC I ② 地域防災活動

積雪時の防災活動

NBC I ① 地域防災活動

地域防災 = 地域との結びつき

地域防災活動について地域の方々との話し合い

NBC I ① 地域防災活動

地域防災 = 地域との結びつき

計画立案 (防災活動検討委員会) → 検討 (町内班会 + 町内会長) → 実践 (町内ごと + 地域住民) → 振り返り (個人 + 地域住民)

年4回の活動 = 地域の一員、地域の防災リーダー

NBC I ③ 地域防災活動

防災マップ冬バージョンの作成

DVD化 → 地域配布

NBC I ④ 地域防災活動

小学校との連携 (夏)

①小学校児童町内班会にて危険箇所の説明
②緊急時を想定した、集団下校

NBC I ② 地域防災活動

各町内ごとに計画した防災活動

NBC I ② 地域防災活動

ふるさと学習 (地域行事への参加)

NBC I ④ 地域防災活動

小学校との連携 (冬・2年生主体)

①小学校児童町内班会にて冬の危険箇所の説明
②緊急時を想定した、集団下校

NBC II 避難所としての学校

- ①避難訓練
- ②AED講習会
- ③快適な避難所コンテスト
- ④炊き出し訓練

NBC II ① 避難所としての学校

避難訓練 (夏)

教室にヘルメットを常備

国会議事堂にて

NBC II ① 避難所としての学校

避難訓練 (冬)

NBC III エコ産業都市と防災

リサイクル産業 エコシステム花岡の見学

人災と防災

NBC III エコ産業都市と防災

人災と防災

体験学習のまとめ新聞

NBC II ② 避難所としての学校

AED講習会

AEDの使い方を知らう

教えてもらう

教えてあげる

NBC II ③ 避難所としての学校

快適な避難所コンテスト

NBC IV 成果の普及と啓発

学校祭における防災展

NBC IV 成果の普及と啓発

地域防災セミナーへの参加

NBC II ④ 避難所としての学校

なべっこ・炊き出し訓練

自衛隊・地域の方の協力

NBC III エコ産業都市と防災

①エコシステム花岡の見学

NBC IV 成果の普及と啓発

①防災展 (学校祭)

②地域セミナーへの参加

成果

「防災リーダー」としての自覚

地域との結びつき

いざという時の協力体制

「地域のカ」

頼れる中学生

防災に関する知識・実践力

防災活動検討委員会

→生徒の自主企画

主体性の向上

防災意識の向上

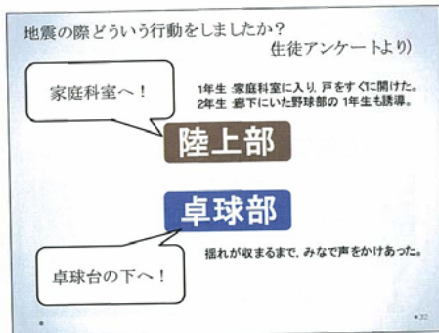
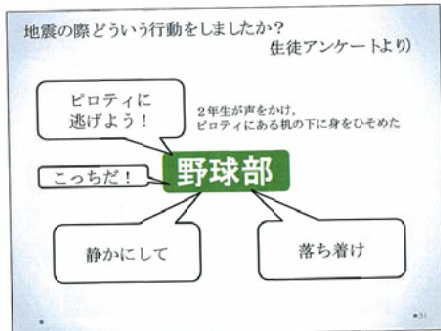
将来にわたって地域に尽力する心

自己肯定感

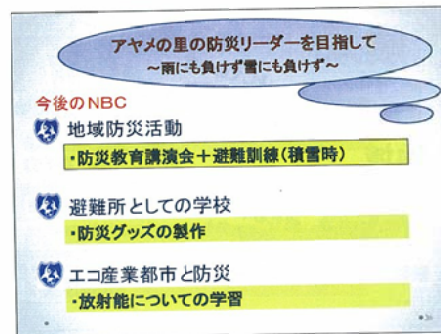
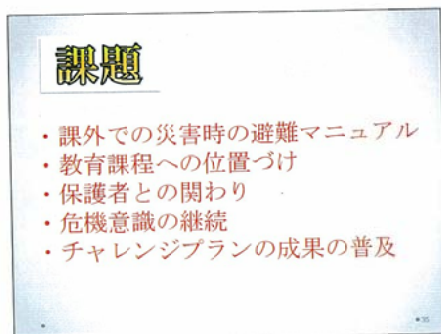
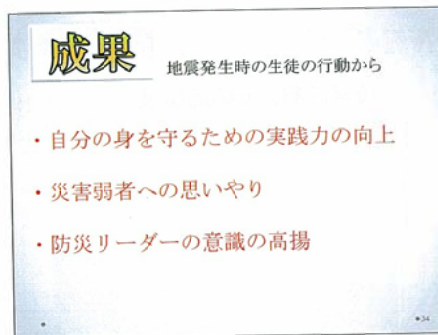
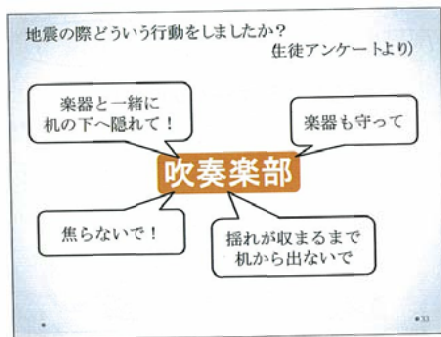
12月7日(金) 17:31

大館市：震度3

その時、中学生は・・・



教職員実践発表会での発表 (H25.1.10)



地域防災マップ

町内ごとに防災計画

大館二中 住民招き話し合う

言を受けた。
このほか市教委キ
リア教育コーディネ
ターの平元美沙緒さん
が、被災地における中
学生の役割について講
話した。

話し合いは17町内に
分かれて行い、避難場
所の草取りや消火器の
使用方法講習会など当日
の計画を決定。「3・
11を契機に発電機など
の備品をそろえたので
安心してほしい」と、
住民が生徒に町内の取
り組みを報告する姿も
見られた。続いて代表
町内が内容を発表し、
市消防員から指導助



地域住民を招き、防災活動内容を話し
合う生徒たち（大館市第二中学校）

からも真剣な表情で、感
マッサジを続けた。

高橋詩織さん（1年）
は「思ったより力が必要



タミー人形を相手に心臓マッサージに挑戦
する生徒（大館二中で）

で2分間は身を感じた
なと感嘆。消防本部職
員は、救急車が現場に到
着するまで平均18分

かかるため、周の助け
を呼ぶことが大切とし
た。
AEDは、心臓けい
れん状態に陥った時、電
気ショックを与え、ため
の医療機器。同校にも
設置されている。講義
では、デモ機を使い、実
際の操作を体験した。

万々に備え真剣に

大館二中 生徒と職員
ら70名参加 救命講習で心肺蘇生法学ぶ

大館二中（員数約150名）で、昨年同様、同日、救命講習会が開かれ、生徒や地域住民らが大館市消防本部の職員を講師に、心肺マッサジやAED（自動体外式除細動器）の使い方を学んだ。
同校は、内閣府が支援する防災教育チャレンジプランの助成を受け、地域ぐるみで防災教育の実践研究に取り組んでいる。



タミー人形を相手に心臓マッサージに挑戦
する生徒（大館二中で）

防災計画

町内ごとに防災計画



長面袋



ニッ森



高館下



松木



松峰



商人留

防災教育の計画作成

とめによると、小中学校と高校で平均年2回以上の避難訓練を計画、内容に工夫を凝らす学校も目立つ。一方で地域との連携が不足しているなどの課題も浮上、県教委は「避難訓練の準備を多岐にわたる学校全体で防災教育を進めてほしい」としている。

昨年3月11日の東日本大震災を受け、県内全ての公立学校で防災教育についての年間計画が作成された。防災教育に重点を絞った年間計画の作成は、本年度が初めて。避難訓練から授業まで体系的に盛り込み、実効性ある指導を目指す内容。県教育委員会のまと

避難訓練や心肺蘇生…授業や行事に盛り込む

年間計画では、教員の人材、計画作成によって防災教育の取組の幅が広がると見られる。県教委は「防災教育の取組は、授業や行事に盛り込むことが重要」としている。また、避難訓練の回数も増加している。県教委によると、今年度は、小中学校で平均年2回以上の避難訓練を実施する学校が増えている。また、避難訓練の内容も、心肺蘇生や応急処置など、防災教育の取組が広がっている。また、避難訓練の内容も、心肺蘇生や応急処置など、防災教育の取組が広がっている。



浄城西小の校門前に設置された防災教育の取組を促す看板。同小は能代市教委のモデル校として、地域と連携した防災教育を進めている＝同市雄勝町

県教委によると、今年度は、小中学校で平均年2回以上の避難訓練を実施する学校が増えている。また、避難訓練の内容も、心肺蘇生や応急処置など、防災教育の取組が広がっている。また、避難訓練の内容も、心肺蘇生や応急処置など、防災教育の取組が広がっている。

自分の命守ろう 大館二中 生徒が避難訓練

大館市第二中学校（貝森登校長、生徒148人）で29日、避難訓練が行われ、生徒た



ちが避難方法を確認しながら緊急に備えて意識を高めた。写真

ヘルメットと軍手の着用を採用。学校が緊急避難の際に備えた。地震速報を受信した瞬間に、生徒たちはヘルメットと軍手を着用し、机の下に潜り込んだ。また、心肺蘇生や応急処置などの訓練も行われた。

同校の防災教育の一環として、今年度は、避難訓練の内容も、心肺蘇生や応急処置など、防災教育の取組が広がっている。また、避難訓練の内容も、心肺蘇生や応急処置など、防災教育の取組が広がっている。

学校報「あやめ」 (防災関係)

学校報「あやめ」の発行について、詳しくは、学校報の発行部局にお問い合わせください。



あやめ

学校だよりの
(校内にのみ配布しています)
大館市立第二中学校
平成24年5月7日発行
担当 田中

緊急時の保護者への連絡 保護者向けメール一斉送信システム

災害時の緊急連絡のための「メール一斉送信システム」のテスト送信を、4月27日に実施しました。ご確認くださいませでしたでしょうか。

登録したのに、メール着信がない場合は、ご連絡ください。

【 二中 48-2935 教頭宛 】

重要

メール登録をされなかった方の 緊急連絡の受け取り方

町内班長宅の「張り紙」を見る！

災害などの緊急事態の際には、町内班長（子ども。大人の町内会長ではありません）になっているお宅の玄関の張り紙を見に行き、情報を得てください。

町内班長のいるお宅に、張り紙をしてほしい時は、メールの最後に右のような文面をつけて送信します。

ご自分のお子さんが町内班長である場合は、お手数ですが、張り紙をしてくださいようお願いいたします。

町内班長は
張り紙を！



要件・・・・・・・・

町内班長（生徒）のいるご家庭では、この内容を玄関に掲示してくださいよう、お願いいたします。（二中）

町内の張り紙宅は 次の通り

上・中・大通り	木村 匠平	山神台・中台	日景 達也
商人留	貝森 涼太	二ツ森	島山 壮平
獅子ヶ森一区	伊藤 駿	長面	なし
小釈迦内	沢木 遙	長面袋	白川 航大
獅子ヶ森二区	伊東 雅矢	板子石	室岡 瑠華
松 峰	島山 智帆	向羽立	日景 和
松 木	篠村 萌花	日景町	伊藤 遥歩
高館下	田村 杏莉		



台風12号の動きにかかる安全の確保について

台風12号の特徴

- 1 ゆっくり、動きが遅く、影響が長引く恐れがある
- 2 ドーナツ型のため、強雨は上陸の前後2回ありそう
- 3 大きな台風であるため、広いエリアで強雨の恐れがある

休日中の外出については、状況を見て判断し、十分に注意してください。



あやめ

学校だより

大館市立第二中学校
平成24年7月1日発行
担当 田中

防災教育

昨年度から実践してきた防災教育の成果が大きく新聞に取り上げられ、他校からの視察や新たな取材が入るなど、二中の防災教育が注目されています。

避難訓練 ～新たに、緊急地震速報への対応、ヘルメット・軍手を着用して～

- ◆二中はどのようにして避難するのかがわかりました。二中では、「助けられる人から助ける人へ」の合い言葉で防災に取り組んでいることを知りました。多くは防災について考えて、「助けられる人から助ける人」になりたいと考えました。校長先生の話聞いて、ヘルメットは大切だとわかりました。(1A 須合優/日景町)
- ◆避難訓練は初めてではないけれど、ヘルメットや軍手を使ってするのは初めてでした。今日はいつもより素早く行動できたと思います。地震が起きたときは危ないもの(刃物)からなるべく離れたりして、身の安全を確保したいです。あの2つの合い言葉を忘れないで生活していきたいです。(1A 谷琴音/商人留)
- ◆今日初めて「ヘルメット着用」をして避難訓練をしました。ヘルメットは少し重かったけど、命の方が重とおもいました。冷静に避けてきました。もし、本当に砕私印がきても、焦らず走らないで避難したいです。今日の避難訓練を生かして頑張りたい。声を掛け合って、自分の身は自分で守りたいです。(1B 小松奈々子/獅子ヶ森1)

「防災活動の日」7月4日(水) 14:25～ 二中にて

町内会長さん、または町内の代表の方に学校へおいでいただいて、ご助言をいただきながら子どもたちが各町内でできる防災活動を計画する時間を設定しております。この計画をもとに、今後の町内活動を実施することになります。すでに連絡済みですが、ご協力よろしくお願いいたします。



あやめ

学校だより

大館市立第二中学校
平成24年9月1日発行
担当 成田

地域に感謝をもって 地域の元気の源に

「助けられる人から 助ける人へ」

二中は昨年度から防災教育に力を入れていますが、この夏休みも保護者や地域の皆さんとともに、「救命講習会」や「地域防災活動」に取り組みました。地域の方々と普段から交流を深めておくことは、地域が一体となって災害などの緊急事態に当たるという意味で大変重要なことです。また、活動の中で、地域の皆さんからアドバイスを頂いたり、社会貢献についてお話を伺ったりすることは、地域の一員としての自覚を深める有意義な機会となっております。今後も生徒が地域で活動する際には、どうぞご協力ご指導をよろしくお願いいたします。

地域の方の感想から

◇「備え」という面で、とても大切な講習だと思いました。消防の方も、とても分かりやすく教えて下さり、たくさん大切な事を学ぶことができました。

◇救命の仕方を知ることができ、参加して良かったなと思いました。生徒達も真剣に取り組んでいて、すばらしいと思いました。

(8/1 救命講習会)



商人留



消火器の使い方講習



獅子ヶ森

ゴミ集積所の整理 板子石
(8/22 地域防災活動)

ふるさと学習の日(9/11)みこしほとんどの町内で行われる子ども御輿担ぎ等の行事に、例年中学生も参加させていただいております。今年度は平日で授業日ですが、授業は行わず、町内行事に参加できるよう計画しました。「元気なあいさつ」を心がけ、自分から積極的に活動できるよう、事前に指導したいと考えております。参加している中学生には、地域に一員として声をかけていただき、活躍の場を与えてくだされば幸いです。

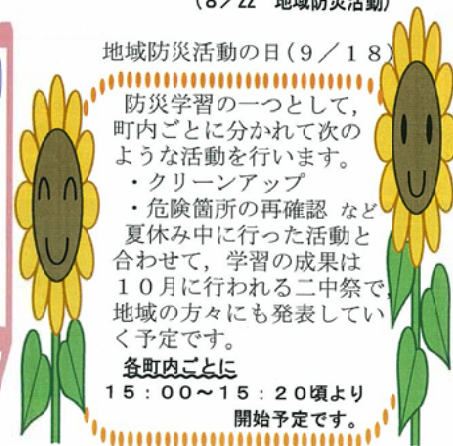
地域防災活動の日(9/18)

防災学習の一つとして、町内ごとに分かれて次のような活動を行います。

- ・クリーンアップ
 - ・危険箇所の再確認 など
- 夏休み中に行った活動と合わせて、学習の成果は10月に行われる二中祭で、地域の方々にも発表していく予定です。

各町内ごとに

15:00～15:20頃より
開始予定です。





あやめ

炊き出し訓練 & なべっこ

～ 自衛隊員の指導のもと、地域の方々の協力も ～

例年実施している、郷土料理のきりたんぼづくりと、炊き出し訓練を兼ねて実施。防衛省秋田地方協力本部大館出張所自衛隊員の皆さんが、かまどの作り方、効果的な火のおこし方、かまどでの炊飯の仕方、さらに非常時の備えなどを指導してくださいました。

今日の炊き出し訓練では、自衛隊の方から2つのことを教えてもらいました。1つ目は被災時に必要なものや被災時に気をつけることです。僕は非常食や懐中電灯があればいいと思っていましたが、実際は懐中電灯の他に電池などの予備が必要なこと、また服やトイレトペーパー(3 層 1 冊)などは、水に濡れないようにジップロックの袋を使うことなどを学びました。

2つ目は炊き出しなどの食料をどう配るかということです。自衛隊の方は「炊き出しなどをやれない人もいる。そういう立場の弱い人を強い人が守っていかなくてはならない。」と言っていました。この言葉は被災時だけではなく、日常や社会に出ても必要なことです。だから今日習ったことを被災時だけでなく、ほかの場面でも使っていけたらいいなと思います。
(3年 三浦浩平)



今日の炊き出し訓練では、これからの生活に役立つことをたくさん学びました。特に大事だと思ったことは協力することです。自分だけよければいいのではなく、周りの人がうまくできていなかったら、手伝ってあげたり、教えてあげたりすることが大切だと思います。
私たちの班ではおにぎりを作るときに、握る人、水をつける人、塩をかける人、ラップで包む人に分かれ、効率よく作業しました。一人一人役割の違う人たちが協力し合い、無駄なく作ることができてよかったと思います。(中略) 今日、学んだことを災害時に生かすためには、自分一人ではできないこともあると思います。だから、もし災害が起きたときは、自分一人ではがんばろうとせず、周りの人が知らない人だったとしても、コミュニケーションをとり、協力しようと思いました。(3年 畠山智帆)

復興へできることは

東日本大震災の被災地で、国内外の中学生が復興に向けてできることを話し合った「全国生徒会サミット」(11月5日、岩手県釜石市)に、二中学生(会長の細谷享平さん)が参加しました。事前に二中学生会の活動紹介をまとめるなどの準備をしてサミットに参加した細谷さんは、サミットでは大館市内の小中学生が率先して取り組むオンラインアップやベトナムボランティア回収などを紹介されました。サミットの成果は二中のみならず、大館市内に還元されそうです。



全国生徒会サミットでの経験を報告する安部さん(左)と細谷さん(右)(中央公民館)

秋田県学校安全優良校受賞



地域の皆さんと一緒に取り組んでいる防災活動が認められ、県学校安全優良校として表彰されました。



あやめ

広がる地域との輪 顔の見えるつながり

心の通う交流は 「助けられる人から助ける人へ」と

8月22日の「地域防災活動」に続き、9月11日に「ふるさと学習の日」、18日に「地域ボランティア」と、地域活動を実施しました。事前の活動内容の相談や当日の活動に協力してくださいました、町内会長さんをはじめ、多くの地域の皆さん、ご協力本当にありがとうございました。

子どもたちと地域の方々との顔の見えるつながりは、ますますあいさつや声かけがしやすい温かな関係を築き、災害等、万が一の際には、地域が一体となって思いやりの心を実践に移せる環境になってきたと感じています。

↓ こんな活動も!!



「ふるさと学習の日」
地域の伝統的な習わしに参加



「地域ボランティア」
見晴らしの悪い垣根の枝はらい



「ふるさと学習の日」
小・中学生・国中生・大人も勢揃い

「積雪時防災マップ」完成

～二中祭全校制作～

昨年度作成した「防災マップ」に、積雪時の調査結果と9月の防災活動の結果を加えた「積雪時防災マップ」が完成しました。

各町内活動も、様々な体験を通して活発になり、上級生のリーダーシップも発揮されるようになっていきます。

マップはDVD化して地域にも配布する予定です。



成果を発表「防災教育チャレンジプラン」

全国で18団体(小学校2校、中学校2校、特別支援学校2校)が採択されている、チャレンジプラン(内閣府主催)の中間発表会で、本校を代表して中嶋舞衣子先生が、取組を発表しました。

地域との連携について「本気で地域と連携しているのがすばらしい」「地域との連携が非常にうまくいっている。」「雪害への理解と実践を今後どのように進めるのか興味がある」などの感想や助言をいただきました。

今後も、地域とともに防災活動を推進していきたいと思っております。



かまど作りから挑戦

野外で自衛隊員講師に初訓練



自衛隊員を招いて初めて行われた炊き出し訓練(大館二中で)

【大館市報】大館市立第二中学校(大館市)の生徒が、自衛隊員を講師として、野外で炊き出し訓練を受けた。訓練は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、自衛隊員が、炊き出しの準備や、炊き出しの方法などを説明した。生徒たちは、真剣な表情で話を聞いていた。訓練は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、自衛隊員が、炊き出しの準備や、炊き出しの方法などを説明した。生徒たちは、真剣な表情で話を聞いていた。

恒例の「なべっこ」で訓練

初の大館二中 災害に備え炊き出し



地域を助ける一員に

【大館市報】大館市立第二中学校(大館市)の生徒が、恒例の「なべっこ」で、災害に備える訓練を受けた。訓練は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、生徒たちは、炊き出しの準備や、炊き出しの方法などを説明した。生徒たちは、真剣な表情で話を聞いていた。訓練は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、生徒たちは、炊き出しの準備や、炊き出しの方法などを説明した。生徒たちは、真剣な表情で話を聞いていた。

児童に危険箇所説明

大館二中 自作マップを活用

【大館市報】大館市立第二中学校(大館市)の児童が、自作の危険箇所マップを活用して、危険箇所の説明を受けた。説明会は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、児童たちは、自作の危険箇所マップを手に、危険箇所の説明を受けた。説明会は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、児童たちは、自作の危険箇所マップを手に、危険箇所の説明を受けた。



手作りの防災マップを使って児童に学区内の危険箇所を説明する大館市第二中の生徒たち

「用水の庄司敏郎さんにも参加して、危険箇所を説明する。説明会には、大館市立第二中学校の児童が、自作の危険箇所マップを手に、危険箇所の説明を受けた。説明会は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、児童たちは、自作の危険箇所マップを手に、危険箇所の説明を受けた。

【大館市報】大館市立第二中学校(大館市)の児童が、自作の危険箇所マップを活用して、危険箇所の説明を受けた。説明会は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、児童たちは、自作の危険箇所マップを手に、危険箇所の説明を受けた。説明会は、大館市立第二中学校の体育館で行われ、児童たちは、自作の危険箇所マップを手に、危険箇所の説明を受けた。